

日本 DMORT ニュース第 5 号(2020 年 3 月)

【目次】

1. 理事長よりのメッセージ
2. 訓練参加報告
 - 1) 令和元年度 中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練
 - 2) 令和元年度東北ブロック DMA T 参集訓練 (新潟市)
3. DMORT 養成研修会の報告
 - 1) 第 24 回 DMORT 養成研修会(京都)
4. 事務局からのお知らせ

#####

1. 理事長よりのメッセージ

(日本 DMORT 理事長：吉永和正)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がパンデミックとなった現在、何の関わりもないという会員の方はおられないであろうと思います。予防に関してはすべての方が避けて通れないところであり、それぞれの立場でご苦労があることと拝察いたします。

このような時期に DMORT ニュース?と思われる方もあるかもしれませんが、このような時だからこそ DMORT 活動を振り返っておき、社会的混乱の収束後に備えておかなければならないと考えています。

法人の会計年度は 1 月から 12 月となっています。したがって令和元年度(平成 31 年度)の活動というのは昨年の 1 月から 12 月までのもので、この 1 年を振り返っておきたいと思います。この 1 年間は大規模災害訓練への参加が 7 回、DMORT 養成研修会が 4 回と近年まれにみる活動が活発な年でした。昨年度はニュース 3 号、4 号が配信されており、10 月頃までの状況は皆様方にお伝えしてきました。それ以降の活動を今回お伝えしますが、昨年度を通じての活動で皆様に十分に説明のできていないものがあります。それは中央省庁への陳情です。計 4 回の陳情活動を行いましたので、経緯と今後についてご説明いたします。

第 1 は 3 月 28 日の野田聖子議員訪問です。山崎理事が議員と面識があったことで訪問の機会を得ました。DMORT がどのような活動をするものなのか事前にイメージすることがむづかしかった、一般の知名度が上がれば自治体も受け入れてくれるであろうとのことでした。

第 2 は 5 月 17 日の警視庁刑事部鑑識課訪問です。東京監察医務院を通じて、警視庁担当部署の訪問の調整をしました。私は参加できなかったのが山崎理事に訪問を依頼しましたが、警視庁にはすでにチームが編成されており外部と協定を結ぶことはないとのことでした。

第 3 は 12 月 2 日の厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 訪問です。河野理事が前原誠司 議員と知り合ったことから、訪問調整をしていただきました。私たちの DMORT 活動は医療の範疇からはずれており警察と話を進めるべきであろう、厚労省は各県から上がってきた問題の調整が必要な時に関わりを持つとのことでした。

第 4 は 12 月 18 日の警察庁長官官房 犯罪被害者支援室 訪問です。これも前原誠司 議員の調整によるものでした。これまでのように県警と個別に交渉してゆくのがよい、県庁防災部門との連携も重要と指

摘を受けました。

これらを通じていえることは、DMORT 活動の一般的な認知度を高めるとともに、県レベルでの関係を構築してゆくことが今後の目指すべき方向性であるということです。

COVID-19 の影響で研修会の延期が必要となりました。令和 2 年 3 月 8 日に名古屋掖済会病院で予定されていた第 25 回 DMORT 養成研修会は延期することとしました。参加者の選考も終わっていたので、再開日が決まれば今回登録された希望者を優先的に採用します。5 月には新潟での研修会を企画していましたが、これも延期となりました。これらの研修会は年度内には実施したいと考えています。法人からのメール連絡やホームページでご確認ください。

最後に明るいニュースを一つ。令和 2 年 2 月 28 日に福井県警察と協定を締結しました。兵庫、愛知に続き 3 県目ですが、詳細は次のニュースで報告いたします。

2. 訓練参加報告

1) 令和元年度 中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練

(愛知県支部事務局：新田 満・稲波 泰介・伊藤 美和)

秋の木漏れ日を感じる温かな日差しの中 2019 年 10 月 10 日、愛知支部として初主体参加となる中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練が開催されました。昨年は関西国際空港一部閉鎖の影響で中止だったため、参加スタッフも、模擬患者役の看護学生も楽しみに一年間待った訓練でした。

過去に開催された訓練では、DMORT として組織の確立がされず、本部との指揮命令系統が途切れると言う問題点や、遺体安置所内での御遺族への説明のスペースの確保、御遺体と遺族の導線の問題点が明らかとなりました。

訓練に先駆け 2 か月前の 2019 年 8 月 1 日に、空港の中で机上訓練が行われました。実際の現場では、ご遺族と家族が同じスペースに集まってくる中、ご遺族に配慮した説明場所、ご対面場所を用意する必要があること、それぞれの現場で限られたスペースでどの様に設営するか、中部国際空港職員・県警・日本 DMORT で話し合いました。

実訓練では、神戸の本部から理事長の吉永和正先生、理事の河野智子さん、正会員の浅田恒夫さんに参加いただきました。愛知支部のプレーヤーは 8 名で医師 1 名、歯科医師 2 名、看護師 4 名、救命士 1 名、とタスク 1 名、更に北川支部長・薄井副支部長を含めサポート役として支部事務局メンバー 3 名を加えた総勢 17 名で参加しました。

【訓練の様子】



訓練時、CSCAに基づきまずは組織図を作成し、指揮命令系統の確立をしました。多くのご遺族に対応が可能な様に、また情報集約を円滑に行うため、統括・副統括を主に、2名ずつのペアとなり、役割分担をして活動を行いました。リーダーが県警・空港職員と情報共有し調整を図ることによって、各ペアが次々に来られる、御遺族と御遺体の対応に行えるように取り組みました。そして、訓練が安全に行われる様に安全管理担当を決め、空港職員とも連携を取りました。また患者役の学生にも担当をつけ、常に安全管理と対応に問題が無い様に手配しました。ペアは医師または歯科医師と看護師とで組み、医師または歯科医師が検案書を確認し説明して、看護師やその他の職種がそばで寄り添うというように役割分担をし、より御遺族に寄り添える環境づくりを行いました。DMORT 隊員が、御遺体確認から御遺族対面までの流れを県警と確認し、県警から御遺族への DMORT の紹介、被災状況の説明時の、県警・DMORT 隊員の配置等、役割分担で行いました。今回、研修後初めての訓練参加スタッフも含め県警・空港職員との連携の大切さを実感するいい訓練になりました。愛知県では、2018年4月に愛知県被害者支援連絡協議会の正式な会員となり、愛知県警と協定が結ばれ日々の会議・訓練でコミュニケーションが図れているため、各職種がお互い連携し御遺族対応が行える様になってきました。

本訓練の振り返りから、事前に御遺体・御遺族の導線を考えた配置づくりや指揮命令系統・組織構成等の準備を行い、御遺族に配慮した対応ができたのではないかと考察しました。しかし、県警・空港職員との調整を図るための場所を考えておらず、情報集約に苦労し、コミュニケーションの大切さを再認識致しました。調整本部の配置を行うことにより、情報の共有がタイムリーに行うことができ、よりスムーズな遺族対応ができるのではないかと感じました。

最後に訓練を開催するに当たって、御支援いただいた皆様にお礼を申し上げます。



2) 令和元年度東北ブロックDMA T 参集訓練 (新潟市)

(新潟大学医学部災害医療教育センター 佐藤栄一)

【訓練名】 遺体仮安置所設置・運営ならびに災害死亡者家族対応訓練

【日時】 2019年11月2日(土) 10:00~16:10

【場所】 新潟県消防学校

【訓練目的】

- 1.大規模地震災害時の犠牲者と黒タグ傷病者に対応する関係機関の連携の検証、
- 2.災害死亡者家族支援チーム(DMORT)の活動の実際の紹介と連携のあり方の検討

【訓練参加機関】 日本DMORT、新潟県警査第一課、新潟県警被害者支援室、新潟県歯科医師会、新潟県葬祭業協同組合、新潟大学医学部災害医療教育センター

【参加者】 合計32名(日本DMORT講師2名、DMORT養成研修修了者18名(歯科医師、看護師等の病院職員、消防職員など)、新潟県警被害者支援室2名、新潟県警捜査第一課3名、県警機動隊2名、DMAT医師1名、新潟県歯科医師会1名、新潟県葬祭業協同組合1名、運営スタッフ2名)

【訓練想定】 2019年11月1日(金)午前11時に新潟県の長岡平野西縁断層帯の一部を震源とするマグニチュード8.0の地震が発生した。この地震により新潟市や県央地域で震度7を観測し、多くの建物の倒壊、沿岸部の津波、火災、液状化等により多数の死傷者が発生した。新潟県と新潟市は新潟県消防学校に仮遺体安置場を設置し対応することとなり、DMORTが協力することとなった。

【訓練の流れ】 地震により倒壊した建物から救出され、DMAT等によるトリアージで区分黒(救命困難群)と判定された傷病者について、敷地内の新潟県消防学校校舎内に設置された仮遺体仮安置所に県警機動隊が黒タグの傷病者を搬入後、市役所職員(今回の訓練ではDMORT養成研修修了者が代行)と警察による受付、警察による検視と医師による検案、歯科医師による歯科所見の観察、身元確認、警察と被害者支援室、DMORTによる家族支援という一連の流れを実施した。

【プログラム】

- 10:00~ 資料確認、配役、会場準備
- 13:00~ シナリオ1、振り返り
- 13:50~ シナリオ2、振り返り
- 14:40~ シナリオ3、振り返り
- 15:30~ 全体振り返り
- 15:55~ 片付け
- 16:10 撤収



< 歯科医師による歯科所見の観察 >



< 警察と医師による検視検案 >

【シナリオ概要】

- シナリオ1：両親と子一人の3人家族。図書館に子どもを置いて両親が買い物中に地震が発生。図書館が倒壊し子どもが下敷きに。仮遺体安置場を訪れた両親に対応。
- シナリオ2：少年野球チームの合宿中。余震の建物倒壊により、チームのコーチが下敷きとなった。仮遺体安置場を訪れたコーチの妻と野球チームの監督に対応。
- シナリオ3：専門学生の友人同士3人で外出中。学生一人が地震の建物倒壊により下敷きとなった。友人二人と下敷きになった学生の母親に対応。

【訓練概要】

災害派遣医療チーム（DMAT）は、大規模自然災害発生時に被災地内外で迅速に緊急医療支援活動ができるように、全国を8つのブロックに分け、それぞれで都道府県が主催の大規模実働訓練を年1回開催しています。東北ブロックは、東北6県に新潟県を加えた7県で構成されていて、令和元年度は7年ぶりに新潟県で開催されました。訓練は、新潟県内の災害拠点病院や一般の医療機関、新潟県庁、新潟空港、保健所、新潟県消防学校など10か所以上の訓練会場にDMAT60チームを含む約700名が参加する大規模訓練でした。

今回、この訓練の企画の段階で、遺体仮安置所設置・運営ならびに災害死亡者家族対応訓練を加えました。東北ブロックDMAT参集訓練では初めての試みでした。その理由は、以下のような考えからです。まず、自然災害や大規模地震災害などの災害超急性期から活動するDMATの医師や看護師などは、トリアージで「黒」と判定する技能を研修により習得します。しかし、そのトリアージ黒の患者やその家族への対応については、日本DMAT隊員養成研修の中にはなくなっています（令和元年度末時点）。しかしその一方で、御嶽山噴火災害や那須雪崩事故のようにトリアージ黒の患者対応が必要な事案は実際に発生しています。また、熊本地震などのように日本DMORTが派遣される機会もあり、被災地においてDMATとDMORTとが連携する機会は今後増えるだろうと見込まれます。そうした流れを踏まえ、DMATにDMORTの存在を広めたい、というのが理由の一つです。他にも、災害時の死亡者やそのご家族に対応する警察や被害者支援室、葬祭業者、医師会、歯科医師会、行政などと、平時から顔の見える関係づくりをここ新潟県で構築したいという理由に加え、平成30年と令和元年に開催したDMORT養成研修IN新潟の修了者の方々の技能維持とモチベーション維持の機会を提供したい、という理由もありました。

初めての新潟での災害時死亡者家族対応訓練ということに加え、東日本の各地に被害をもたらした台風19号の影響が残る中、関係機関への訓練参加の呼びかけや調整に難渋しましたが、最終的に県警や被害者支援室、葬祭業者、県歯科医師会に協力いただけました。さらに、手弁当にもかかわらずDMORT養成研修修了者も新潟県内外から20名近くが訓練参加を希望してくれました。訓練に向けては、日本DMORTの吉永和正理事長と河野智子理事に数か月前からご指導いただき、また前日から新潟に足を運んでいただき訓練当日はきめ細やかなご指導をいただきました。訓練の運営は、第2回DMORT養成研修IN新潟

の修了者であり日本 DMAT 隊員養成研修タスク登録者でもある新潟大学医歯学総合病院の
小山明日香看護師が主に担当しました。

<家族の受付>



訓練準備として、当日午前中にまず訓練参加者によるシナリオの読み合わせと配役を行いました。上記の3つのシナリオそれぞれの3名の DMORT 役に加え、遺体役や家族などの関係者役も DMORT 養成研修修了者が担当しました。また、会場として新潟県消防学校の1階の教室3部屋を、県警や被害者支援室の指導のもと、「遺体受付、検視、検案、身元確認」、「面会室」、「家族受付、待機室」として準備しました。面会室には今回、新潟県葬祭業者から訓練用にご提供いただいた本物の棺を設置しました。13時から開始された訓練では、実際に県警機動隊が担架によって黒のトリアージタグのついた遺体役のマネキンを搬入するところから始め、市役所職員役による受付、警察による検視、医師による検案、歯科医師による身元確認という流れで実施しました。もちろん実際に、死亡診断書やデンタルチャート、照合結果報告書などの書式も使用しました。そしてそれと並行して、市役所職員役と被害者支援室職員によるご家族や関係者の受付、警察からの説明等を経て、実際の面会、家族等の対応という一連の流れを、時間をかけて実施しました。家族等の関係者役の間で予め想定された反応を、DMORT 役に事前に知られないよう準備しました。

<面会する家族に対応する DMORT>



一方、シナリオごとの3名のDMORT役は、お互いの役割分担や立ち位置などについて話し合いをして臨みました。DMORT養成研修のロールプレイを経験して間もない研修修了者は、その時の経験を踏まえての入念な準備をしたお陰もあり、シナリオごとに大変リアルな訓練になりました。シナリオが終了するごとに、それぞれの役者からの感想と2人の理事からポイントのフィードバックがあったことも、タイムリーに経験や思いが共有されたことで訓練効果をさらに一層押し上げたように感じました。実際に訓練参加者の振り返りの中では、DMORTの活動として、長い時間家族に寄り添うことの難しさや死の宣告をされるまでの時間の過ごし方、興奮状態の関係者同士をどう案内や誘導したらいいのか、といった疑問や、家族の心情に寄り添うだけでなく、身体面にも気を遣う事の重要性について言及される場面がありました。訓練全体を通じては、訓練現場が現実の空間に近いものであり良かったとか、シナリオにリアリティーがあり感情移入しやすかった、DMORTとしてうまく関われたといった評価がありました。その一方、訓練設定上の課題と改善点としては、遺体の受傷状況や体表所見等細かい設定がされておらず、検視班から家族への検視説明時に手間取ってしまったとか、訓練時はシナリオのみでなく受傷の程度等傷病者の細かい設定も考える必要がある等の建設的な意見も頂くことができました。

<訓練振り返り>



<訓練参加者>



当初の訓練目的をほぼ達成することができ、また訓練参加者にも一定の満足度が得られた訓練でした。今後は、今回参加いただけなかった担当行政関係者等にも参加を呼び掛けてさらに関係者間の連携を構築するとともに、DMORT 養成研修修了者への更なる学びの場の提供のモデルとして充実、発展できるよう尽力していきたいと考えます。今回の訓練についてご協力いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

3. DMORT 養成研修会の報告

1) 第 24 回 DMORT 養成研修会 IN 京都

(日本 DMORT 理事：河野智子)

2019 年 12 月 21 日 (土)、京都第一赤十字病院 5 階多目的ホールにおいて、第 24 回 DMORT 養成研修会が開催された。京都第一赤十字病院で行われるのは 2 回目。1 回目は、第 17 回 DMORT 養成研修会 2014 年 10 月 19 日だった。今は取り壊されてない建物の大会議室で行われたことを思い出され、平成から令和へと時の流れを感じる。

北は長野県から、南は鹿児島と、2 府 12 県の医師、心理士、看護師、救命士、消防士、社会福祉士、事務職、警察官の 35 名が受講された。スタッフ 12 名、タスク 12 名と多くの登録会員の参加も得て、すべてのプログラムを無事に終了することができた。

京都第一赤十字病院の南東には、もみじで有名な東福寺がある。せっかく、京都にきていただいたのに、東福寺に行く時間もなくて残念だった。しかし、受講された皆さんからは満足度の高い言葉をいただいた。京都開催 3 回目を心待ちにしている。



4. 事務局からのお知らせ

2020年2月末現在での会員状況をお知らせします。理事8名、正会員17名、登録会員154名、賛助会員3名（団体）です。

基本的には入会いただける方は「登録会員」となります（会費3000円）。正会員は従来の世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております（会費1万円）。

当法人の会計年度は1～12月ですので、会費納入をよろしくお願ひします。ご自身が会費納入をしているかが不明の方は事務局までお問い合わせください。訓練参加やタスク参加など、会員限定の特典もありますので、是非引き続き会員になっていただけるよう、よろしくお願ひいたします。

【理事名簿】

理事長：吉永和正（医療法人協和会 市立川西病院）

副理事長：村上典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

理事：

北川喜己（名古屋掖済会病院副院長）

久保山一敏（京都橘大学健康科学部教授）

黒川雅代子（龍谷大学短期大学部教授）

河野智子（京都第一赤十字病院看護部）

長崎 靖（兵庫県監察医務室）

山崎達枝（長岡崇徳大学看護学部看護学科准教授）

監事：

鵜飼卓（兵庫県災害医療センター顧問）

【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112（代） F A X：0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail：information@dmort.jp

<編集後記>

前回の発行（10月）以降、原稿がたまってしまったのに発行できず、申し訳ありません。とりあえず2019年12月末までの活動についてまとめました。特に新潟大学の佐藤先生からの原稿は、当法人の初めてのDMAT訓練への参加となりますので、詳細に報告させていただくことになりました。今年に入ってから1月に訓練、2月の災害医学会と、活動はしておりますが次号（5月発行予定）でご案内します。

皆様、新型コロナ対策でいろいろとお忙しいでしょうが、どうかご自愛ください。

（編集担当：村上典子）